

地域おこし協力隊 1年目活動報告

廃校活用の整備と地域連携の取り組み

📅 2025年4月～2026年2月



BACKGROUND & FOCUS

自己紹介と 活動の背景

◎ 芸術大学を卒業して地域へ

大学卒業後、そのまま地域おこし協力隊に着任。
社会人経験がほとんどない状態でのスタートでした。

◎ 「自分に何ができるか」の模索

最初は地域の中で自分の役割を探し続ける日々。
地域の方々との対話からヒントを得ていきました。

📍 1年目の焦点

“すでにある廃校を、
さらに良くするための整備”



施設整備の方向性

廃校という“すでにある場所”だからこそ、ゼロから作るのではなく、今ある価値を活かしながら新しい役割を与えていくことを意識しました。



01

機能を足していく

ゼロから作るのではなく、既存の施設に新しい機能をプラス。“整備”を単なる修理で終わらせず、使いやすさを追求します。



02

利用者目線の設計

「どんな人に使われるのか」
「誰がここに来るのか」
使う人の顔を思い浮かべながら、具体的な利用シーンを設計します。



03

可能性を広げる

ただ場所を綺麗にするだけでなく、「どんな可能性があるのか」を模索。将来的なイベントや活動を見据え、場所の価値そのものを高めます。

RENOVATION & FUTURE

家庭科室の改装

作業スペース化と今後

◎ 現状：作業環境の整備

工具のある作業スペースとして再構成。
棚の整理や道具の配置を見直し、作業効率を向上させました。

◎ 今後：地域に開かれた場所へ

地域の方が気軽に使える“みんなの作業場”を目指します。

🔧 DIY

🔧 修繕作業

🔧 ものづくり

◎ 目指す姿

「部屋を整える」から、
“機能を持たせる” 場所へ

Before



After



資料室の整備

単なる施設の機能整備だけでなく、地域の記憶が残る場所としての価値を再発見。
古い教科書や資料を通じて、過去と未来をつなぐ空間づくりを進めています。



01

貴重な資料の収集・展示

地域の方が大切に保管されていた
古い教科書や、閉校した川合小学校に
関する資料を収集。
誰もが閲覧できる形で展示する予定で
す。



02

地域の記憶を残す場所

この場所は単なる資料室ではなく、
地域の歴史や思い出が詰まった
「記憶の保管庫」です。
世代を超えて語り合える場を目指しま
す。



03

2年目への継続整備

現在は膨大な資料の整理・分類の途中で
す。
1年目の整理作業を土台に、
2年目は展示空間として完成させるた
め、
継続して整備を行っていきます。

資料室

Before



After



屋外整備とアートの取り組み

環境整備



草刈り

周辺の見栄えを整え、施設の第一印象を向上させました。

環境整備



校内清掃

利用者が気持ちよく過ごせるよう、清潔な環境を整えました。

準備作業



鳥小屋の解体

ピザ窯小屋を建てるためのスペース確保として実施しました。

表現活動



ポンプ室・遊具の塗装

無機質な建物や遊具に色を入れ、空間の印象を大きく変えました。

アートプロジェクト



壁画制作

京都芸術大学の学生と協働。「立ち止まり、写真を撮りたくなる景色」をつくりました。

ポンプ室

Before



After

